

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/4)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	ヤマモトシンイチ
学歴	平成 9年 3月 福井県立大学経済学部経済学科卒業 平成11年 3月 大阪市立大学大学院経済学研究科博士前期課程理論経済学・経済史専攻修了 平成16年 9月 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程経済学・経済政策専攻修了				
学位	平成11年 3月 経済学修士 (大阪市立大学) 平成16年 9月 経済学博士 (神戸大学、博い第82号)				
専門分野	公共経済学、財政学				
専門資格					
所属学会	日本財政学会、日本経済学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 経済学、公共経済学、公共政策、応用ミクロ経済学、エクスターンシップ実習、地域公共政策士 総合演習、初年次演習、総合社会学基礎演習、総合社会学演習、現代社会研究演習 . . .				
論文指導	論文指導 (卒論 : 3名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	経済学	講義・演習・実習・実験	春・秋	193名	
	<p>授業の概要： この授業では、経済学の入門的知識と日本経済の現状および課題について講義する。この講義の前半部分では、市場メカニズムや家計や企業の合理的行動といったミクロ経済学の入門的知識を学習する。後半部分では、国民所得の決定や貨幣の動きなどマクロ経済学の入門的知識についてもその概略を学習する。それらの知識を得ることと並行して、日本経済がおかれている状況や課題についても理解を深めていく。</p> <p>教育活動の振り返り 教育活動の成果： 1 経済学の考え方に対する理解を促すため、授業において図表、具体例、そして数値例などの使用を心がけた。また、履修者とのコミュニケーションを図るため、授業の中間段階でアンケートを実施した。そこで履修者から寄せられた回答より、そういった手法が履修者の授業内容の理解を促していることが確認できた。また、アンケートに対する回答を踏まえ、授業方法の改善を試みた。その例として、講義終了後に履修者が課題に取り組む時間の確保が挙げられる。 今後の課題： 数回の授業において、授業時間の大部分を講義に充てる結果になり、履修者が講義後の課題に取り組む時間を十分に確保することができなかった。次年度以降、講義時間のマネジメントを徹底したい。</p>				
科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数		
公共経済学	講義・演習・実習・実験	春・秋	61名		
<p>2 授業の概要： この講義では政府の「役割」と「限界」に対する経済学的な考え方を学習するとともに、公共部門をめぐる新しい動きないし課題についても学んでいく。したがって、公共経済学の基本的な考え方を「市場の失敗」を基点に学習することから始め、その後、規制緩和、地方分権、公的企業の民営化といったより現実的な公共部門をめぐる経済的課題にアプローチしていく。</p>					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績 つ づ き	<p>教育活動の振り返り</p> <p>教育活動の成果：</p> <p>公共経済学の考え方に対する理解を促すため、授業において図表、具体例、そして数値例などの使用を心がけた。また、履修者とのコミュニケーションを図るため、授業の中間段階でアンケートを実施した。そこで履修者から寄せられた回答を踏まえ、授業内容の改善を行った。その例として、授業時に配布するレジユメの項目の修正、板書の改善が挙げられる。</p> <p>今後の課題：</p> <p>授業時間の大部分を講義に充てる結果になり、履修者が講義後の課題に取り組む時間を十分に確保することができなかった。次年度以降、講義時間のマネジメントを徹底したい。</p>
	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績</p> <p>学内第1回FD講演会への参加（演題：「京都文教大学の初年次教育を考える ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携」）（発題者：手嶋英貴氏，日時：2014年10月30日（木）14:40～16:10）</p>
	<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等</p> <p>1. 3回生ゼミにおいて夏季研究会を行い、政策研究のための指導を行った。所属ゼミ生は、当研究会ならびに秋学期のゼミを通じて得られた研究成果を「第10回京都から発信する政策研究交流大会」（開催日：2014年12月7日、場所：キャンパスプラザ京都）において発表した。</p> <p>2. 地域公共政策士総合演習における取り組みについて、履修生とともに「第2回グローバル人材フォーラム」（開催日：2015年2月27日、場所：京都産業大学むすびわざ館）において報告した。</p>
H26 年度 研究課題	<p>1. 公共財の自発的供給モデルに関する研究</p> <p>2. 公共財の費用分担ルールに関する研究</p>
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要	<p>1. 公共財の自発的供給に関する記述的なモデルを描写している論文を中心に、サーベイを行った。それにより以下のような知見が得られた。参加ノルムと自発的供給行動との間の再帰的な関係、双対的な効用を設定し、自発的供給行動を双対的な自己の間の非協力的なゲームとして記述すること。個人のノルムおよび所得水準と自発的供給水準との間の関係についての分析は、次年度の課題としたい。</p> <p>2. 公共財の費用分担ルールに関して、cost share equilibrium の性質を中心にサーベイを行った。それにより以下のような知見が得られた。linear cost share equilibrium は Lindahl-Foley equilibrium に一致するのみならず、後者の均衡はパラメータの値を適切に選べば前者の均衡概念によってサポートされること、balanced linear cost share equilibrium は個人の費用負担が公平な状態を実現すること。Cost share equilibrium と自発的供給モデルの均衡概念との間の関係についての分析は、次年度の課題としたい。</p>
平 成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動)
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
平 成 二 十 六 (2014) 年 度 の お け る 活 動 の 社 会 に お け る 活 動	(学内活動)
	自己点検・評価 教育研究専門委員会委員、教務委員会委員、大学間連携共同教育推進事業（地域資格）委員会委員、経済・経営コース教務担当
平 成 二 十 六 (2014) 年 度 の お け る 活 動	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)</p> <p>・財団法人大学コンソーシアム京都 京都市 未来の京都創造研究事業 政策評価結果の分析検討会 アドバイザー 「平24.7より」</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/4)

<p>平成二十六(2014)年度の 社会における活動</p>	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財団法人大学コンソーシアム京都 都市政策研究推進委員会(旧:都市政策研究会) 委員「平23.4より」 ・ 宇治市水道事業経営審議会 委員「平26.7より」 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都産業大学非常勤講師「平20.4より」
<p>平成二十一～二十五(2009～2013)年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>平成20年 4月 広報委員会委員「平22.3まで」 入試実行委員会委員「平23.3まで」 高大連携委員会委員「平23.3まで」</p> <p>平成23年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「現在に至る」 教務委員会委員「現在に至る」 人間学研究所所員「平24.3まで」</p> <p>平成24年 4月 現代社会学科予算委員「平25.3まで」 経済・経営コース教務担当「平25.3まで」 コース運営会議メンバー「平26.3まで」</p> <p>平成25年 4月 大学間連携共同教育推進事業(地域資格)委員会委員「現在に至る」 公共政策コース教務担当「平26.3まで」</p>
<p>平成二十一～二十五(2009～2013)年度の 社会における活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成24年 7月 財団法人大学コンソーシアム京都 京都市 未来の京都創造研究事業 政策評価結果の分析検討会 アドバイザー 「現在に至る」</p> <p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <p>平成23年 4月 財団法人大学コンソーシアム京都 都市政策研究会「現在に至る」</p> <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成21年 6月 京都文教高等学校、「お金の動きはどうなっているの？」</p> <p>平成21年11月 京都文教高等学校、「収入と支出について」</p> <p>平成22年 6月 長浜北星高等学校、「私たちの暮らしと経済の関わり」</p> <p>平成22年 9月 京都府立鳥羽高等学校、「携帯電話の料金はどのように決まっているのだろうか? ~ 公共政策入門~」</p> <p>平成23年 1月 京都文教高等学校、「家計におけるお金の動き 収入、支出、消費、貯蓄」</p> <p>平成23年 4月 洛陽総合高等学校、「私たちの暮らしと経済との関わり ~ 経済学入門~」</p> <p>平成23年10月 京都府立鳥羽高等学校、「携帯電話の料金はどのように決まっているのだろうか? ~ 公共政策入門~」</p> <p>平成24年 2月 京都府立山城高等学校、「寄付は社会を変えられるか？」</p> <p>平成24年 4月 滋賀県立長浜高等学校、「寄付は社会を変えられるか？」</p> <p>平成24年 7月 京都府立八幡高等学校、「無料ビジネスと企業の戦略」</p> <p>平成25年 4月 1. 滋賀県立長浜高等学校、「寄付は社会を変えられるか?」、於: 京都文教大学宇治キャンパス</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/4)

平成二十一〜二十五(2009〜2013)年度の 社会における活動	<p>(小中高との連携授業の講師 つづき)</p> <p>平成25年 4月 2. 京都文教高等学校ALP、「無料ビジネスと企業の戦略 ~無料ビジネスで企業は損をしないのか?」, 於:同校</p> <p>平成25年 7月 京都府立八幡高等学校、「無料ビジネスとクーポン:生き残るのはどっち?」, 於:京都文教大学宇治キャンパス</p> <p>(その他)</p> <p>平成20年 4月 京都産業大学経済学部非常勤講師「現在に至る」</p> <p>平成22年10月 公益財団法人大学コンソーシアム京都 京都の大学「学び」フォーラム2010、模擬講義講師、「寄付行為と社会貢献 ~行動経済学入門~」, 於:大谷大学</p> <p>平成23年 4月 大阪市立大学非常勤講師「平25.3まで」</p> <p>平成25年 6月 公益財団法人大学コンソーシアム京都 京都の大学「学び」フォーラム2013、模擬講義講師、「寄付を通じた人と社会とのつながり 寄付つき商品の魅力とは」, 於:立命館大学びわこ・くさつキャンパス</p>
-------------------------------------	---